

令和 7 年度 学校評価書 (実施段階)

福岡県立 福島 高等学校(定)

76

<p>スクール・ミッション (本校の存在意義や社会的役割 目指すべき学校像)</p>	<p>「正しく、強く、美しく生きる」という精神を胸に、自己実現に向けて努力する生徒を支援する夜間定時制高校 多様な生徒が共に学ぶ環境の中で、生徒一人一人の個性を尊重しながら社会人として必要な資質・能力や豊かな人間性を育み、社会に貢献できる人材を育成します。</p>	
<p>スクール・ポリシー (三つの方針)</p>	<p>グラデュエーション・ポリシー (育成を目指す資質・能力に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・規範意識、協調性、忍耐力を身に付け、社会人として必要な資質・態度の育成</li> <li>・進路の幅を広げるために、多様な資格を取得できる力の育成</li> <li>・学んだ知識や技能を活かして社会に貢献できる人材の育成</li> </ul>
	<p>カリキュラム・ポリシー (教育課程の編成及び実施に 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・義務教育段階の既習事項の「学び直し」を取り入れた基礎学力の定着</li> <li>・働きながら学ぶ厳しさを乗り越える精神力と自ら学ぶ意欲の育成</li> <li>・多彩な学校行事を通じた、豊かな人間性の涵養</li> </ul>
	<p>アドミッション・ポリシー (入学者の受け入れに 関する方針)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本的な生活習慣の定着と様々な学習に真摯に取り組む人</li> <li>・社会のルールやマナーなど規範意識の涵養に努める人</li> <li>・自らの人生についてじっくりと考えて、将来の進路を決めたい人</li> </ul>

学校運営計画(4月)

学校運営方針	校訓「正大・剛毅・優美」を胸に、自己実現に向けて努力を重ねるとともに、身に付けた豊かな人間力で社会に貢献する高い志を持つ人を育てる。		評価 (総合)
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標	
<p>【成果】 令和6年度は、生徒がチャレンジし成長できる機会とすること、および地域とのつながりを意識することを心がけながら、様々な学校教育活動を実施してきた。地域からは、「福島高校は生徒が伸び伸びと学ぶことができる学校である。」「生徒が落ち着いて学習に励み、仕事と学習の両立に努力している」という評価をいただいている。これは、生徒が生き生きと学び、活動する場を提供し、生徒が主体的に取り組むよう様々な仕掛けをし続けている成果の表れといえる。生徒の成長を家庭とともに支援するため、保護者との連絡を密にし連携を心がけており、保護者にもご理解、ご協力をいただいている。</p> <p>【課題】 保護者、中学生、地域の方々や就労先の皆様等に本校の教育活動を伝えるためのHP、SNS年間を通じての学校見学等様々な手段や機会を活用しているが、即時性のあるHP、やSNSを積極的に活用する等より効果的な方法を工夫する必要がある。さらに、個別最適な学び、協働的な学びの実現を可能にする授業改善を実施すること、そして生徒に確かな学力を付けさせ、進路希望を実現できる学校として、さらに教育内容を充実させていくことが必要である。</p>	<p>「自ら考え、自ら判断し、チャレンジする」態度の育成及び他者と協働し課題解決に挑む態度の育成</p>	<p>良質かつ本質的な問いかけや個に応じた指導を通して、「自分には何ができるか」と主体的に考え、判断し、行動に移す態度及び他者と協働し課題解決に挑む態度を、全ての教育活動を通して育成する。</p>	<p>A</p>
	<p>「社会に貢献できる人材の育成」を目標とした、より組織的な教育活動の充実</p>	<p>生徒に基礎的・基本的な知識・技能を習得させ、教員は個別最適な学び、協働的な学びにつながる授業を実践することにより、生徒の「思考力」「判断力」「表現力」の育成を図るとともに自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。授業と評価方法の改善により、指導と評価の一体化を図る。生徒とのコミュニケーションを大切に、生徒の個性や能力を引き出すとともに社会性を身に付けさせ、個々の生徒の状況と特性に応じた進路の実現を目指す。</p>	
	<p>関係機関との連携強化による地域に開かれた学校づくり</p>	<p>本校の特色ある教育活動を通して、生徒により広い世界を体験させるとともに、屋間の就労を奨励し、就労先を含め地域社会との連携強化を図り、地域に開かれた学校づくりを推進する。</p>	
	<p>生徒の人権意識の向上及び安心・安全な学校づくり</p>	<p>人権教育を推進することにより、生徒の人権意識を向上させ、違いを認め合い、自分自身と他者を大切にする心豊かな人間性を育む。ICTの積極的活用を通して、生徒理解や個別最適化された授業の実践及び業務の効率化を推進し、生徒と教員が心身ともに健康で安心して過ごせる学校づくりに努める。</p>	

様式3

評価項目	具体的目標	自己評価			評価(3月)		結果の考察と次年度の課題	学校関係者評価					
		具体的方策	生徒、保護者対象のアンケート(外部アンケート等)の結果等			項目ごとの評価		学校関係者評価委員会からの意見					
教科指導	「わかる授業」を目指した授業の工夫・改善を行い、基礎学力を定着させる。	授業の在り方等について職員間で共通理解を図りながら、全職員で生徒の落ち着いた授業態度を徹底させる。	授業アンケート【授業の理解度】89.1% 授業内容がわかった。58.6% だいたいわかった。30.5%	A	A	各教科で義務教育段階の「学び直し」を取り入れていることで、授業の理解度は89.1%と非常に高い。次年度も全職員で生徒の落ち着いた授業態度を徹底させるとともに、学習の遅れがちな生徒に対する手厚い学習支援に努めたい。	A	各教科において義務教育段階の学び直しが実施され、授業の理解度につながっている。 ・生徒用端末の活用をさらに進められ、個別最適な学びを深めていただきたい。					
		主体的に学ぶ態度の育成や、深い学びの実現に向けた実践に努め、自己実現のために努力する力を養う。		授業と評価方法の改善により、生徒の多様な資質能力を広く評価できる授業を実践し、主体的に学習に取り組む生徒の育成を図る。					A				
	生徒指導	道徳教育の推進と規範意識の醸成を図り、望ましい行動の促進に努め、いじめや問題行動を未然に防ぐ力を養う。	規範意識育成学習(いじめ防止・非行防止)や道徳教育の推進により、問題行動の未然防止を図る。 社会人としてのルールやマナーの指導、あいさつや言葉遣いの指導により、生徒の社会性を高める。 アンケート(いじめ・学校生活)や家庭チェックリストを継続して実施し、早期発見・早期対応に努める。	生活アンケート(4.6.7.8.9.11.12)授業中の態度について複数回書いてあった。集中したい生徒が増えたとも言える。今後もそのようなことがあれば、早期に適切な指導を行う。					A	A	次年度以降も規範意識育成学習及びアンケートを活用しながら、早期かつ適切な心掛けを。また、個に応じたきめ細やかな対応と粘り強い諦めない丁寧な指導を、全職員で共通認識を持ちながら生徒一人一人の成長を実現する。	A	・規範意識育成学習やアンケートの活用により、いじめの未然防止や早期対応が図られている。 ・全職員及び関係機関と連携を図りながら、生徒指導、教育相談に取り組まれている。
		カウンセリングを充実し、心の悩みを知ることで、中途退学の防止に努め、魅力のある学校の雰囲気づくりを図る。	部活動の充実や生徒会活動の活性化を図り、行事への積極的な参加を促し、対人関係を構築する。 生徒情報交換会において職員間での情報共有と共通理解を深め、生徒との望ましい関係を深める。 教育相談の充実を図るとともに、保護者との連絡・連携を密にし、出席向上や欠席減少を推進する。	いじめアンケート(5月・10月)読解や意見の相違から、5月に1件の投稿があったが、個別に事情聴取を行い、双方が納得するまで解決を図った。今後も迅速に対応したい。					A				
進路指導	働きながら学ぶ厳しさを乗り越える精神力と自ら学ぶ意欲の育成及び学校教育全体を通じてキャリア教育を推進し、社会人として望ましい勤労観・職業観を育成する。	上級学校紹介や社会人講話など、外部講師を招聘した進路指導講座の開催を推進し、勤労観・職業観を育成する。	就業状況調査(毎月実施)12月調査結果 全学年 64.9% 第1学年 50.0% 第2学年 50.0% 第3学年 100.0% 第4学年 100.0%	A	A	ハローワーク等の外部機関と連携し、外部講師を招聘した進路講座を開催した。生徒の勤労観・職業観の育成を図り、早期に就職進学指導を全職員が協力して取り組むことが出来た。また、在校生の就労率は12月時点で64.9%(昨年56.8%)であった。就労率向上に向け、次年度も継続した指導を続けていきたい。	A	・ハローワーク等の外部機関との連携により、生徒の勤労観、職業観の育成が図られている。					
		進路の幅を広げるために、多様な資格を取得できる力の育成及び生徒の進路に対する意識を高めさせ、卒業予定者の就職、進学を実現させる。	アルバイト等の就業経験を積ませ、就業条件等の内容を理解させ、就労することの大切さを学ばせることで、卒業時の就業のミスマッチを防ぐ。 挨拶・勤勉・節度・マナーなど、社会人として生きる力を身に付けさせる。	進路希望調査(4月全学年実施)第4学年調査結果(第4学年在籍生徒数 7名) 就職 3名(県内就職希望)進学 2名(看護系・公務員系)					A				
	進路目標を早期に設定させ、進路実現に必要な学習指導を徹底する。	進路希望調査(4月全学年実施)第4学年調査結果(第4学年在籍生徒数 7名) 就職 3名(県内就職希望)進学 2名(看護系・公務員系)	B	A					今年度は就職内定者は5名中3名が内定、2名が縁故就職、進学希望者(専門学校含む)は3名中2名が合格、1名は来年度再受検。次年度は早期に希望進路実現が図られるよう、全生徒の進路に対する意識が高まるように指導する一方で、じっくり最後まで丁寧な指導が必要がある。				
	大学進学等を希望している生徒へは、模試等を紹介し、進学意識の高揚を図る。	大学進学等を希望している生徒へは、模試等を紹介し、進学意識の高揚を図る。	A										
給食・保健指導	安全・安心に学ぶことができる学校づくりを推進するとともに、食と健康に対する生徒の意識を高め、たくましい身体とさわやかな心を育てる。	保健講座(性教育・AED講習会等)を実施し、健康に対する意識の高揚を図る。また、学校医と連携し健康診断を実施する。	保健講座後アンケート実施	A	A	保健講座や健康診断、保健委員会活動等を通じて、生徒の健康に関する意識の高揚ができた。「保健だより」「食育だより」を定期的に発行できた。次年度もスクールカウンセラー等の関係機関と連携し、継続した生徒支援に努める。	A	・保健講座や健康診断等、保健委員会活動により生徒の健康に関する意識向上が図られている。 ・SC等との連携により相談支援が図られている。					
		「保健だより」「食育だより」を定期的に発行するとともに、保健委員の活動を通して健康増進への意識を高める。	「保健だより」「食育だより」を定期的に発行するとともに、保健委員の活動を通して健康増進への意識を高める。	A									
		スクールカウンセラー等による教育相談について教職員との連携を深めるとともに、生徒・保護者が気軽に相談しやすい環境を整備する。	スクールカウンセラー等による教育相談について教職員との連携を深めるとともに、生徒・保護者が気軽に相談しやすい環境を整備する。	A									
研修・図書	全職員が生徒の現状ならびに課題の把握に努め、校内外の研修等を通して生徒理解の方法を身につける。また、図書室の利用を促し、読書を通じた心の成長をはかる。	授業改善や生徒理解、人権意識の向上につながる職員研修の充実を図り、豊かな人間性を身に付けた生徒の育成に役立てる。	IOT研修、いじめ問題に関する研修、発達障がいとその対応についての研修 学校図書発行	A	A	今年度は、管理職、IOT支援員、スクールカウンセラーによる充実した研修が実施できた。次年度は、令和7年度の研修を活かし、あらゆる教育活動の場面で研修で得た知識や技能を活用し生徒の支援につなげたい	A	・IOTに関する研修を計画的に実施され、授業改善等に向け取り組まれている。					
		職員は、校外研修への参加を促すとともに、授業改善や生徒理解、人権意識の向上に役立つ教育情報の発信を定期的に行う。	職員は、校外研修への参加を促すとともに、授業改善や生徒理解、人権意識の向上に役立つ教育情報の発信を定期的に行う。	A									
		クラス役員と共に「図書だより」の発行やお薦め図書の紹介等を通して、心豊かで、自他を思いやり、自立した生徒の育成につなげる。	クラス役員と共に「図書だより」の発行やお薦め図書の紹介等を通して、心豊かで、自他を思いやり、自立した生徒の育成につなげる。	A									
広報	生徒達の活動を保護者・地域・中学校へ発信する。	個人情報等に配慮しながら、生徒の活動状況等を学校ホームページへの掲載を定期的に更新し、最新の情報発信に努める。	定時制通信発行及び生徒・保護者への配布	A	A	今年度は、学校行事や部活動の様子を写真とともに掲載し、来月の行事連絡を行う通信を毎月発行出来た。次年度は、写真や行事連絡の掲載方法やレイアウトを工夫し、より分かりやすい通信を目指す。また、学校ホームページへの掲載に取り組む。	A	・今後も情報発信ツールの向上に努めていただき、学校の魅力や活動内容を幅広く紹介していきたい。					
		「定時制通信」等の情報を定期的に発信し、保護者・地域・中学校との理解と協力を進め、本校の活動や生徒の姿を発信する。	「定時制通信」等の情報を定期的に発信し、保護者・地域・中学校との理解と協力を進め、本校の活動や生徒の姿を発信する。	A									

様式3

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・現段階の課題の把握に努め、今後の教育活動の更なる充実を図るため、個に応じた指導を図るとともに、合理的配慮を要する生徒への支援体制の充実を図る。

・高い志を持ち社会に貢献できる人材を育成するため、外部講師等の講義を活用するとともに、仕事と学業を両立させ、社会とのつながりを深める教育を推進する。

・生徒の基礎学力の定着と学びたいという意欲の醸成を図る。さらに、多様な考えや思いを持つ様々な生徒の個性を尊重しつつ、自らの考えを他者に伝えることができるコミュニケーション能力を身につけ心豊かな生徒を育成する。

・いじめの早期発見、早期対応のために、日常の学校生活における教職員の観察力(見極める力)を一層高め、「いじめ見逃しゼロ」を念頭に、生徒の情報共有を毎週全職員で行い、チームとして対応できる体制の構築と機動力の強化を図る。

学校関係者評価	
評価(総合)	自己評価は
A	A: 適切である
	B: 概ね適切である
	C: やや適切でない
	D: 不適切である
評価項目以外のものに関する意見	
・仕事と学校の両立で大変だと思うが、様々な面でしっかりと取り組まれていることが理解できた。 ・様々な面で教員の負担は大きいと思うが、引き続き頑張っていたきたい。	